

防災学習と防災支援システム提供による 地域防災力向上に関する研究

柿本 竜治¹・山田 文彦²・藤見 俊夫³

¹熊本大学准教授 政策創造研究教育センター（〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2-39-1）
E-mail: kakimoto@gpo.kumamoto-u.ac.jp

²熊本大学教授 自然科学研究科社会環境工学専攻（〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2-39-1）
E-mail: yamada@gpo.kumamoto-u.ac.jp

³熊本大学助授 自然科学研究科社会環境工学専攻（〒860-8555 熊本県熊本市黒髪 2-39-1）
E-mail: fujimi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学の防災研究グループでは、住民の防災意識を高めるために、リスクコミュニケーションを中心とした地域防災学習を行うとともに、住民のニーズに応じた地域防災支援システムの開発と提供に取り組んでいる。本研究では、それらの取り組みの概要、および近年各市町村で進められている災害時要援護者支援計画への適用例について報告する。

災害時要援護者支援計画のように、災害時要援護者を近隣の人々が支援する取り組みは、その地域の住民間のソーシャルキャピタルの強さによって、かなり差が生じるであろう。そこで、本研究では、都市部の事例として熊本市壺川地区を、山間部の事例として山都町菅地区を取り上げる。具体的には、ワークショップを通じて対象地域の地域版災害時要援護者支援計画を策定する。それと同時に災害情報システム、防災学習システムや安否確認システム等の防災支援システムを対象地区に提供する。そして、災害避難訓練を実施し、策定した支援計画の実効性を検討するとともに運用上の課題を探る。また、避難時に安否確認システムを使用し、機能上、運用上の課題を探る。

キーワード：地域防災力，リスクコミュニケーション，災害時要援護者支援計画，避難行動実験，安否確認システム